



また来年も頑張らしましょう!

埼玉県言語聴覚士会では昨年度から言語聴覚の日のイベントを開催しています。2回目となる今年度は、日本言語聴覚士協会と共同で開催することとなり、イベント開催についてはまだまだ手探りの状態ながら、複数のイベントと広報活動を実施しました。

言語聴覚士について広く一般の方々に知っていただくことを目的に、今年度の活動として3つの取り組みを計画しました。言語聴覚の日の広告掲載、県内高校への案内送付、イベント開催です。

まず、9月1日の言語聴覚の日に地元の地方紙である埼玉新聞の一面に広告を掲載しました。埼玉新聞は発行部数約12万部の埼玉県民にとってなじみの新聞です。「9月1日は言語聴覚の日です」という言葉と県士会のオリジナルロゴマークが入った広告で、県民の方々に広くアピールできたと思います。また、県内を走る西武バスの車内広告ステッカーでも言語聴覚の日をアピールしました。車内広告は12月まで掲載の予定です。

次に、STという職業について10代の若い世代の人にも知ってほしいという思いから、約200校ある埼玉県内の高校に、挨拶状とともにポスター、リーフレットおよびイベントの案内を送付し、STについて紹介させていただきました。少しでも言語聴覚士に興味を持ち、STを目指す高校生が増えることを願っています。

そして、10月12日(祝)に埼玉県西部地域振興ふれあい拠点施設「ウエスタ川越」と隣接する商業施設「ユニクス川越」でイベントを開催しました。

ウエスタ川越多目的ホールでは、映画『英国王のスピーチ』の上映会、相談コーナー、補聴器や嚥下食などの展示、失語症友の会や失語症会話パートナーの紹介を行いました。市の広報や新聞のイベント案内、地域包括支援センターや保健センターでのチラシ配布な

ど、事前にイベントの広報活動を実施したため、開場とともにたくさんの方が来場されました。相談コーナーでは小児から成人まで幅広い内容の相談がありました。耳の聞こえにくさや補聴器についての相談も多く見られました。

屋外のユニクス川越にぎわい広場では、リーフレットと共に風船やティッシュを配布し、1人でも多くの方にSTについて知っていただけるように努めました。その他、嚥下食の試食会、反復唾液嚥下テストや騒音計を活用したゲーム、STについてのクイズなどを行いました。当日は晴天に恵まれ、500名を超える方に対し啓発活動を行うことができました。川越市のマスコットキャラクター「ときも」(時の鐘とさつまいもから生まれたキャラクター)、生涯学習のマスコット「マナビィ」なども一緒に広報活動に参加し、会場を大いに盛り上げました。スタッフは会員23名、学生ボランティア9名でした。特に屋外の広場は気温が高く暑さとの闘いでしたが、一般の方に声を掛けるといふ慣れないことに一生懸命取り組みました。

今年度は規模を大きくして実施する機会を得ました。会場の使用、広告の作成・掲載、イベントの広報、印刷などここに書ききれないほどですが、イベントの主旨や内容をお伝えすると快くご協力いただけたことが昨年以上に多くあり、いろいろな方に支えられて今年度の計画が実現できたと感謝しております。イベントには小さいお子様から年配の方まで来てくださり、発達、構音、聴覚、失語、摂食嚥下など多様な相談がありました。普段は各領域で業務に励む私たちですが、さまざまなニーズがあり、それに応じていくためには全体で協力していかなければならないと改めて感じた一日でした。この経験を今後の活動につなげていきたいと思っています。

来年度も会員一同協力し、さらにSTが一般の方々にとって身近な存在になるよう努力していきたいと思っています。



皆で協力合って充実した一日になりました